

証券コード：3360



第 34 期
株主通信

2025年4月1日 ▶ 2026年3月31日

Well-Being

「生命を守る人の環境づくり」を軸に
「人々がより良く生きる環境づくり」へ

生命を守る人の環境づくり

 **SHIP HEALTHCARE**

シップヘルスケアホールディングス株式会社



代表取締役会長

古川 國久



代表取締役社長

大橋 太

「Well-Being領域」を展望し、新たな「進化」

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。当期（2026年3月期）よりスタートした5か年の中期経営計画『SHIP VISION 2030』では、定量目標として3つの経営指標を掲げ、その実現に向けて企業価値の向上に取り組むとともに、大きく“潮目”が変わりつつある事業環境に対応して、「グループ経営資源の最適化によるポートフォリオ経営」を推し進めております。今回のマネジメントメッセージでは、本中計の3つの定量目標の進捗状況と、“潮目”の変化に対応した主要な取り組み状況についてご説明いたします。

株主資本コストを上回るROEの実現を目指す

当期の業績は、すべての事業セグメントで売上増を果たし、連結売上高は前期比5.9%増の7,181億円となりました。メディカルサプライ事業におけるSPD案件の拡大や、調剤薬局事業における小規模M&A・経営効率化の進展などが業績を牽引し、26期連続増収を達成しております。

一方で、連結営業利益については、メディカルサプライ事業と調剤薬局事業が堅調に推移したものの、トータルパックプロデュース事業における一部案件の完成時期後ろ倒しや、ライフケア事業における物価・人件費上昇等により、前期比1.2%減の244億円となりました。

当社グループは、本中計において下表のように「成長性」「収益性」「資本効率性」を重視した経営を掲げております。特に市場との対話が重要性を増す中、株主資本コストを上回るROEの実現に継続して取り組み、中長期的な企業価値向上を目指してまいります。

本中計の定量目標

成長性	収益性	資本効率性
売上成長率	営業利益率	ROE目標
5%	4%	12%
(年平均成長率 CAGR)	グループ経営資源最適化	株主資本コストを上回るROE

“潮目”の変化を先取りし、新たな成長ステージへ

日本では人口減少と少子高齢化が同時進行しており、医療・介護を取り巻く環境も大きな転換期を迎えています。地域によっては医療提供体制の維持そのものが課題となり、人材不足や物流コスト上昇など、従来の仕組みだけでは対応が難しい局面も増えています。

当社グループは、こうした社会構造の変化を“潮目”の変化として捉えております。この認識のもと、中期経営計画初年度である2026年3月期を「次の成長モデル」を構築するための一年と位置づけ、グループ経営資源の最適化や次世代事業への投資を進めてまいりました。

2027年3月期は、その基盤の上に新たな取り組みを本格始動させるフェーズとなります。医療を中心としながら、その周辺領域を含めた新たな価値創出に挑戦し、持続的な成長に繋げてまいります。

「トータルパックプロデュース(TPP)」の進化 -Well-Being領域への拡張

当社グループの強みである「トータルパックプロデュース(TPP)」は、これまで病院を中心に発展してきました。今後はその対象領域をさらに拡張し、「Well-Being」という広い視点で社会課題解決に取り組んでまいります。医療機関だけでなく、薬局、介護、食事サービ

グループ理念

SHIP

Sincere (誠実な心) Humanity (「情」の心) Innovation (革新者の気概) PartnerSHIP (パートナーシップ精神)

グループミッション

生命を守る人の環境づくり

基本姿勢

し せい そく だつ
至 誠 惻 怛

「至誠」はまごころ、「惻怛」はいたみ悲しむ心を表し、この心を兼ね備えて生きることが人間としての生きる基本姿勢であり、当社グループの基本姿勢です。

2026 KEYWORD

生命を守る、自然と環境を守る!

と『成長』のステージへ

ス、さらには地域コミュニティを形成する様々な機能まで含め、“人々が健やかに暮らせる環境”全体を支えることが、これからのTPPの役割であると考えています。この考え方をグループ全体で共有することで、新たな事業機会の創出や、グループシナジーのさらなる発揮につなげてまいります。

医療材料の流通構造改革を目指す次世代拠点を始動

「メディカルサプライ (MSP)」においては、千葉県船橋市に次世代型物流拠点「SHIPグランベース東京」を開設いたしました。

医療材料流通を取り巻く環境は、物流2024年問題や人手不足、エネルギー価格上昇などにより、大きな転換期を迎えています。従来型の分散型物流モデルでは対応が難しくなる中、当社グループはこの変化を先取りし、より効率的かつ安定的な供給体制の構築に取り組んでおります。

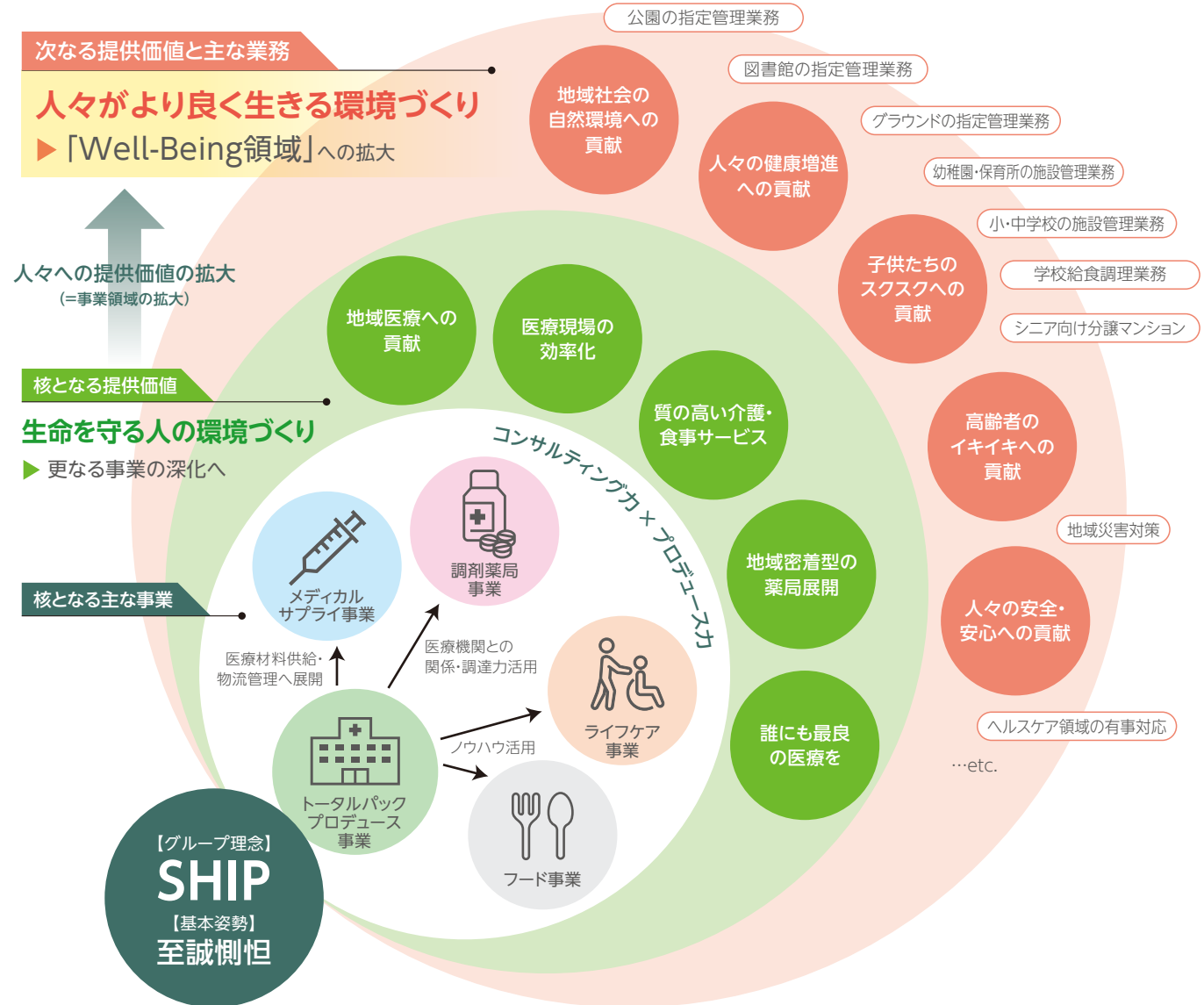
「SHIPグランベース東京」は、単なる物流センターではなく、将来の医療材料流通改革を見据えた戦略拠点として位置づけております。すでに多くのお引き合いをいただいております。今後の成長ドライバーとして期待しております。(→詳細はP3-4参照)。

中長期的な視点で社会インフラへの投資を継続

当社グループは創業以来、「生命を守るインフラ」を支える企業として、医療・介護・地域社会に必要な投資を継続してまいりました。

こうした取り組みは短期的な成果だけを追うものではなく、社会課題の変化を見据えながら、中長期的な視点で着実に積み重ねていくことが重要であると考えております。株主・投資家の皆様には、今後とも当社グループの取り組みにご理解を賜り、中長期的視点からご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社グループにおける人々への提供価値拡大 (事業領域拡大) の方向性



地域医療の物流を支える次世代物流拠点が、首都圏で稼働開始

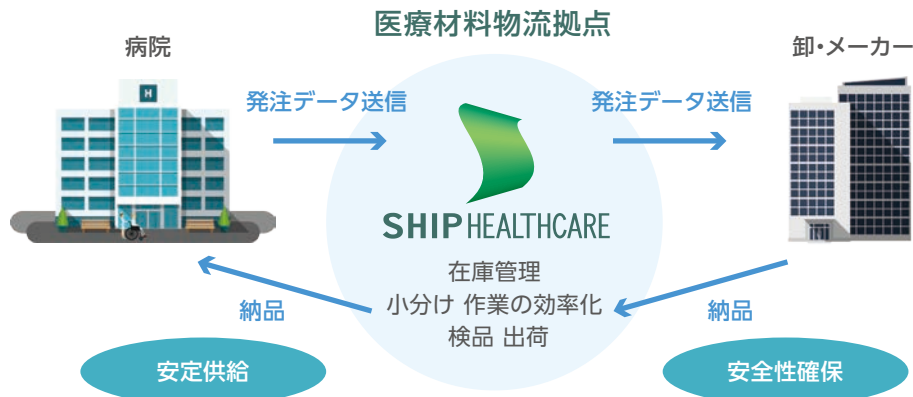
2026年2月に、首都圏医療材料物流拠点「SHIPグランベース東京」が稼働開始しました。本施設は、2021年6月に稼働開始した「大阪ソリューションセンター」に続く当社2拠点目の医療材料物流拠点であり、最新の物流設備を導入した首都圏の基幹拠点となります。今後、災害などの緊急事態発生時も医療材料供給が停滞しないよう、この2拠点が連動してBCP対策を行っていきます。今回の特集では、この次世代物流拠点の展開によって当社グループが思い描く医療材料物流構想の全体像と、「SHIPグランベース東京」の特徴・強みをお伝えします。

シップヘルスケアグループの医療材料物流構想の全体像

病院の課題に応えるDX化推進により 医療材料物流拠点の在り方を変革

病院内の物流(院内SPD)では、日々多くの医療材料が院外から入荷され診療部門へ供給されます。例えば、ベッド数が500床規模の病院では、1日当たり平均で、折りたたみコンテナ70箱の医療材料が搬入されるなど、その管理業務は非常に複雑です。病院では、医療材料を必要な時に確実に届ける「安定供給」と、使用履歴を適切に管理する「トレーサビリティ確保」が重要な課題となっています。これらの課題に応えるために、当社グループでは、「データ管理」を重視し、医療材料の物流拠点をDX化して、データの集約を行ってきました。こうしたデータの蓄積が、当社グループの差別的優位性を高める大きな原動力となっています。

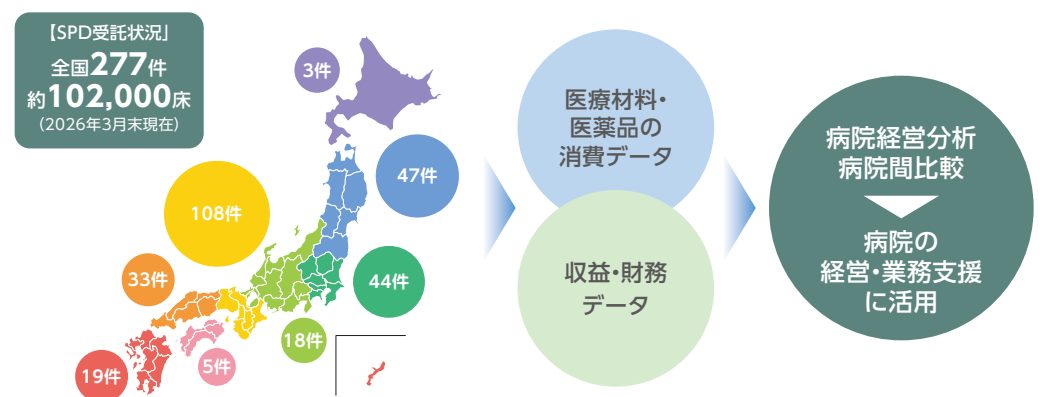
医療材料物流拠点のDX化によるデータ集約



病院から収集・集積したデータの分析により、 病院の経営・業務支援を高度化

医療材料物流を商う競合他社のほとんどが院外物流に特化しているのに対して、当社グループは、院内物流 (SPD) を起点に院外物流へとサポート領域を拡げ、総合的な物流体制を構築しています。この強みを活かし、当社のSPD受託先病院から得られる医療材料・医薬品の消費データを蓄積・分析しています。これらのデータと病院の収益・財務データを組み合わせることで、物流効率化にとどまらない病院経営支援を実現しています。例えば、診療科別の消費傾向分析や適正在庫の提案、購買コストの最適化などを通じて、病院の経営改善や業務効率化を支援しています。物流機能とデータ活用を融合したこうした取り組みは、単なる物流事業者ではなく、病院経営のパートナーとして価値を提供する当社グループならではの強みです。

全国のSPD受託先病院から集約・集積したデータの連携分析



「SHIPグランベース東京」の特徴・強み



「SHIPグランベース東京」の主な特徴

- 自動倉庫システム、AI、ロボティクス、RFID*などの先進技術を活用した次世代型物流拠点
- 約60施設・約2万6千床の医療機関への供給に対応できる体制を整備（設備拡張により100施設まで対応可能）
- 広域型SPDセンターとして機能し、病院同士が繋がりが支え合う地域医療共同物流を実現
- RFIDを採用し、入荷時から出荷、病院への納品、院内の消費まで、完全なトレーサビリティを実現
- 医療現場の作業効率化だけでなく、物流の効率化とコストの削減を図り、病院経営を持続的に支援することを使命として、医療に携わる皆様が、より安全で質の高い医療を提供していく環境作りに貢献

※RFID：電波を用いてICタグの情報を非接触で自動認識する技術。
ICタグを一括で読み取り、瞬時に個体を識別することが可能。

SHIP グランベース 東京

- ▶ 所在地：千葉県船橋市浜町2-4-7
- ▶ 延床面積：4,274坪（14,129㎡）
- ▶ 在庫可能品目数：約70,800

2

在庫
エリア

自動入庫/在庫・ 保管エリア



自動入荷検品後は、自動搬送ロボットにより自動倉庫や各エリアへ搬送。最大約1万ケースを保管可能な自動倉庫で、全商品を有効期限別、出荷単位別に個体管理。庫内の在庫を参照し、夜間に自動で払出。

3

払出
エリア

RENATUSステーション (ピッキング・仕分け)



受注データに基づいてピッキング指示を行い、自動倉庫RENATUSにより複数病院・複数部署の同時ピッキングを実現。膨大な出庫要求に対しても、AIがデータを学習し、リアルタイムで供給を最適化。

1

入荷
エリア

オートラベラー (自動入荷検品・仕分け)



RFIDを採用し、入荷時から出荷、病院への納品、院内の消費まで、完全なトレーサビリティを実現。入荷予定データと注文データを自動照合し、オートラベラーによる自動入荷検品、RFID貼付、自動仕分けを実施。また、ワンフロアのU字型動線を採用し、効率性を向上。

3

払出
エリア

4

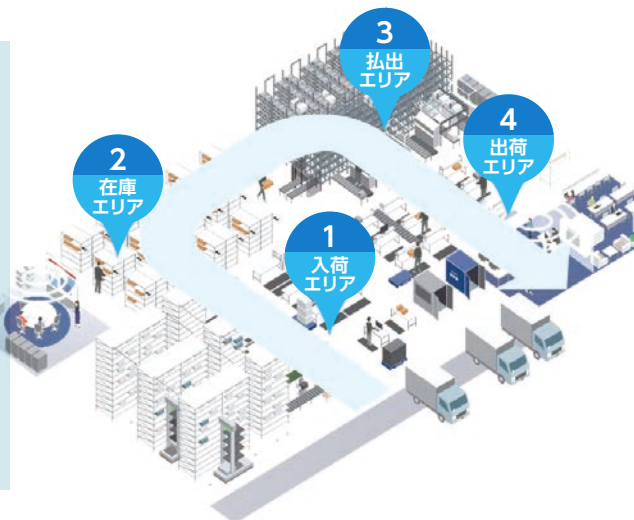
出荷
エリア

2

在庫
エリア

1

入荷
エリア



4

出荷
エリア

RFIDゲート (梱包・自動出荷検品)



商品は出荷検品ステーションへ搬送され、安全性・品質を確認したうえで封緘シールを貼付。出荷待機エリアではカメラ監視と出荷検品ゲートのRFID一括検品を組み合わせることで、すべての商品を99.999999%の精度で出荷。病院到着後の検品を省略できるNO検品システムを実現。

【Well-Being推進】

「生命を守る人の環境づくり」から
「人々がより良く生きる環境づくり」へ

当社グループは、「生命を守る人の環境づくり」を軸に、医療・介護の枠を超え、「人々がより良く生きる環境づくり」へと取り組みを広げています。医療機関や薬局、介護、食事サービスに加え、公園・図書館等の指定管理や学校施設管理など、地域コミュニティや公共空間を支える事業も展開しており、Well-Being領域における提供価値の拡大を進めています。

その一環として、吹田市における公園・図書館等の指定管理や、小学校・中学校・幼稚園・保育所等の施設管理業務を通じて、地域の安全・安心とにぎわいづくりに取り組んでいます。また、「サンタパレード大阪」への参画や「健都リレーマラソン」への協賛を通じて、子ども支援や健康増進、地域交流の促進にも貢献しています。

今後も、医療・介護・地域・暮らしを支えるトータルプロデュース企業として、「生命を守る人の環境づくり」から「人々がより良く生きる環境づくり」へと提供価値を広げ、Well-Beingの実現と持続可能な社会の発展に貢献してまいります。



サンタパレード



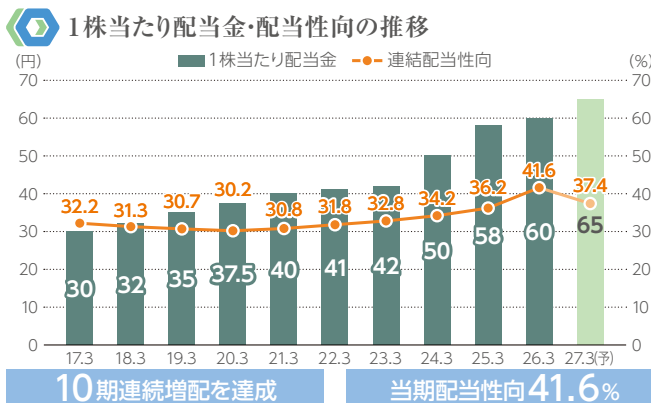
健都マラソン

【株主還元】

増配と自己株式取得により
株主還元を強化

当社グループは、株主の皆様への利益還元を経営上の重要な施策の一つと位置づけ、安定的かつ継続的な配当を重視し、業績の成長に応じた還元を努めています。2026年3月期の年間配当は、前期の1株当たり58円から2円増配し、1株当たり60円といたしました。また、2027年3月期については、さらに5円増配となる1株当たり65円を予定しています。

加えて、2025年6月には、中期経営計画で掲げた株主還元の強化および資本効率の向上を目的として、自己株式取得を決議し、同年10月までに累計2,331,200株、総額約50億円の自己株式を取得しました（発行済株式の2.47%）。さらに、2026年6月には新たに上限330万株、取得総額50億円の自己株式取得を決議しました。中期経営計画「SHIP VISION 2030」では、ROE12%の達成を目標に掲げ、配当性向30%以上の維持や、投資の進捗等を踏まえた機動的な株主還元を資本政策の一つとしています。今後も、成長投資、財務の安定性、株主還元のバランスを重視しながら、資本効率の向上と中長期的な企業価値向上に取り組んでまいります。



(注) 2021年4月1日付で1株を2株に株式分割しており、2021年3月期以前の数値は当該株式分割が2017年3月期の期首時点で実施されたと仮定した数字。

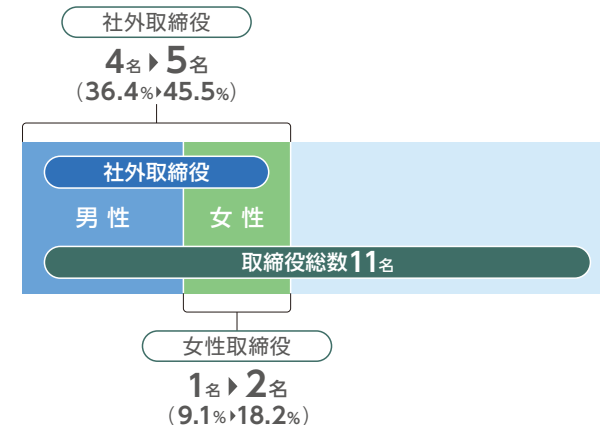
【ガバナンス体制】

社外比率と多様性を高め、
より実効性あるガバナンス体制へ

当社グループは、事業規模の拡大や事業領域の広がりに対応するため、経営に対する監督機能の強化に取り組んでいます。2026年2月には、指名・報酬諮問委員会の構成を見直し、委員長及び委員の過半数を社外取締役とする体制へ変更しました。これにより、取締役の選任・解任、代表取締役の選定、後継者計画、取締役報酬などについて、より独立性・客観性の高い審議を行う体制を整えています。

また、第34期定時株主総会を経て、取締役会は社外取締役5名を含む11名体制となりました。社外取締役比率は45.5%、女性取締役比率は18.2%となり、経営の監督機能と多様性の向上を図っています。新たに社外取締役に就任した内山 由紀氏は、弁護士としての専門的知識と社外監査役としての経験を有しており、法務・リスク管理・コンプライアンスの多様な知見を経営に取り入れることのできる体制となりました。今後も、取締役会の実効性を高め、持続的な企業価値向上につなげてまいります。

取締役の構成 (2026年6月25日現在)



業績の概要

主要経営指標の推移[日本基準](連結)

(単位:百万円)

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	2027/3(予想)
売上高	514,353	572,285	630,988	678,229	718,163	740,000
営業利益	20,505	21,144	24,539	24,779	24,482	26,000
経常利益	21,287	20,607	25,219	26,023	26,331	26,500
親会社株主に帰属する当期純利益	12,172	12,063	13,799	15,128	13,394	16,000
総資産	335,074	381,977	387,562	381,702	385,109	—
純資産	122,318	131,115	142,226	150,280	152,428	—

セグメント情報 (2025年4月1日~2026年3月31日)

トータルパックプロデュース事業

トータルパックプロデュース事業におきましては、2025年5月にグループ入りしたODA専門商社の業績が寄与したことに加え、医療情報系ソリューションビジネスが堅調に推移しました。一方で、前期には大型案件であるシニア向け分譲マンションの竣工・販売がありました。当社は竣工案件がなかったこと、リニューアル案件において特に省エネ関連工事の部材の納期遅延等により利益率確保が低調に推移したこと、メーカー系では部品の価格高騰と一部生産遅延が生じたこと等に加え、M&A手数料等の一過性費用を計上したこと等から、利益面では前年を下回りました。

以上の結果、売上高は136,604百万円(前連結会計年度比2.6%増)、セグメント利益(営業利益)は10,812百万円(前連結会計年度比10.0%減)となりました。

ライフケア事業

ライフケア事業におきましては、食事提供サービスでは契約施設数の伸長や、不採算施設の厨房業務撤退・運営転換を進めました。一方で、介護サービスでは水道光熱費・労務費上昇の影響を受けました。

以上の結果、売上高は37,322百万円(前連結会計年度比1.8%増)、セグメント利益(営業利益)は2,216百万円(前連結会計年度比1.2%増)となりました。

調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、小規模なM&Aや再編統合による経営効率化等により、業績は堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は34,666百万円(前連結会計年度比3.6%増)、セグメント利益(営業利益)は4,004百万円(前連結会計年度比16.9%増)となりました。

メディカルサプライ事業

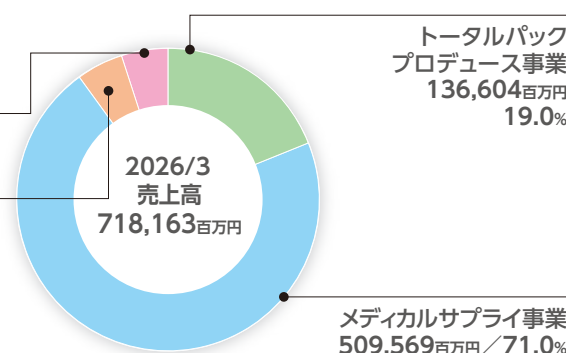
メディカルサプライ事業におきましては、新規SPD受託施設が上期より稼働を開始したことに加え、経営母体の異なる複数病院との一括契約SPD案件がスタートし、売上の拡大に寄与しました。加えて、2024年10月1日付の5社統合による経営効率化の進展や、新たな首都圏の医療材料物流拠点の稼働も事業基盤の強化につながりました。一方で、一部では病院経営の厳しさを背景に備品購入の先送りの影響も見られました。

以上の結果、売上高は509,569百万円(前連結会計年度比7.3%増)、セグメント利益(営業利益)は7,484百万円(前連結会計年度比7.4%増)となりました。

セグメント別売上高構成比

調剤薬局事業
34,666百万円 / 4.8%

ライフケア事業
37,322百万円 / 5.2%



株式関連情報

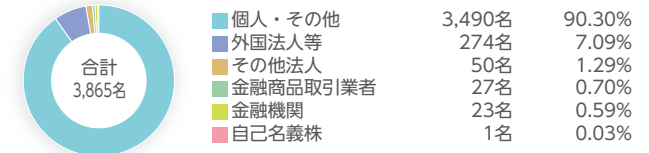
(2026年3月31日現在)

株式の状況

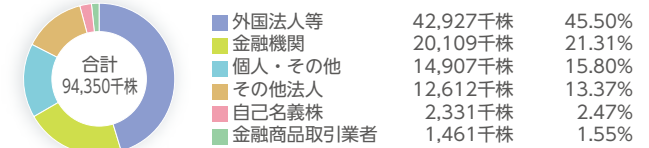
発行可能株式総数	128,000千株
発行済株式総数	94,350千株
株主数	3,865名

株式分布状況

株式分布状況(株主数別)



株式分布状況(株式数別)



※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

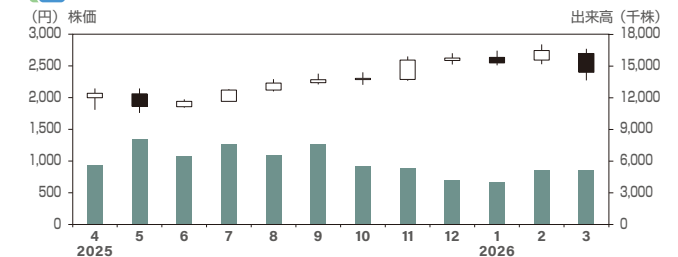
大株主の状況

[保有株式数] [持株比率]

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,393千株	11.29%
株式会社ココー	7,977千株	8.67%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	7,196千株	7.82%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,074千株	5.51%
春日興産合同会社	2,800千株	3.04%
JP MORGAN CHASE BANK 380055	2,779千株	3.02%
古川 幸一郎	2,460千株	2.67%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS	2,409千株	2.62%
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,083千株	2.26%
古川 國久	1,973千株	2.14%

※ 株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。 ※ 持株比率は自己株式を控除して計算しております。
※ 当社は、自己株式2,331,200株を保有しておりますが、上記の上位10名からは除外しております。

株価・出来高の推移



会社情報

会社概要 (2026年3月31日現在)

商号 シップヘルスケアホールディングス株式会社
設立 1992年8月
代表取締役会長 古川 國久
代表取締役社長 大橋 太
資本金 155億5,301万円
決算月 3月
従業員数 連結 7,819名(正社員) 16,080名(従業員)
本社所在地 〒565-0853
大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL : 06-6369-0130
FAX : 06-6369-3191

役員 (2026年6月25日現在)

代表取締役会長	古川 國久
代表取締役社長	大橋 太
代表取締役副会長	小川 宏隆
取締役副社長	横山 裕司
常務取締役	海野 眞史
取締役	安田 芳郎
取締役(社外)	佐野 精一郎
取締役(社外)	今別府 敏雄
取締役(社外)	伊藤 文代
取締役(社外)	西尾 信也
取締役(社外)	内山 由紀
監査役(社外)	水島 藤一郎
常勤監査役	戸田 成重
監査役(社外)	南 浩一
監査役(社外)	佐野 信行

お問い合わせ・資料請求等は、下記まで・・・

シップヘルスケアホールディングス株式会社

〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL : 06-6369-0130 (IR窓口) FAX : 06-6369-3191

URL(ホームページアドレス)

<https://www.shiphd.co.jp/>

SHIP HEALTHCARE



株主メモ

事業年度 4月1日～3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
定時株主総会 毎年6月中
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL 0120-094-777 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所

公告の方法 電子公告によりおこなう
公告掲載URL <https://www.shiphd.co.jp/>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いさせていただきます。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

サステナビリティレポート

「生命を守る人の環境づくり」をミッションのもと、持続可能な社会の実現を目指す当社グループの活動をまとめた「サステナビリティレポート2025」です。ホームページにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



サステナビリティレポート2025表紙

サステナビリティレポート
ダウンロードはこちら



アンケートの お願い

当社では、株主の皆様からいただいたご意見を誠実に受け止め、今後の経営及びIR活動に活かしてまいりたいと考えております。皆様からの貴重なご意見をお待ちしております。なお、本アンケートを当社ディスクロージャーの充実以外の目的には利用しないことをお約束いたします。

Q1 当社株式をいつ頃ご購入されましたか?

- ①1ヶ月以内 ②2～5ヶ月前
③6ヶ月以上前 ④1年以上前
⑤株式上場時(2005年2月)

Q2 当社株式の今後の保有方針をお教えてください。

- ①中長期的に保有する ②短期で考えている
③買い増しする ④投資収益に応じて売却する
⑤未定

Q3 当社経営に関して、何を重視すべきと思われますか? (上位3点をお選びください)

- ①規模の拡大 ②ビジネスモデルの強化
③経営の効率化 ④収益性 ⑤安定性
⑥株主政策の強化 ⑦その他()

Q4 当社のIR活動に関して、何を重視すべきと思われますか?

- ①株主通信 ②ホームページ ③株主総会
④個人投資家向け説明会の開催
⑤その他()

Q5 今回の株主通信でご興味を持たれた内容は何ですか?

- ①マネジメントメッセージ ②特集 ③トピックス
④業績の概要 ⑤株式関連情報
⑥サステナビリティレポート

Q6 今回の株主通信をどのようにご評価されますか?

- ①大変満足している ②ある程度満足している
③普通 ④あまり満足していない ⑤不満である

Q7 その他、ご意見・要望等をご自由に記入ください。